

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	平成30年12月17日(月) 10:00 ~ 12:00
開催場所	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(委員) 当日欠席 宮本 正路(委員) 鎌倉 義雄(委員) 田中 一郎(委員) 当日欠席 向江 奈津子(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 芝 浩文(事務長) 萬井 俊治(教頭) 林 佳巨(教頭) 吉川 勝敏(首席) 酒井 友行(首席) 石見 友一(首席) 岡本 一恵(首席) 古沢 宏明(指導教諭) 辻 美穂(小学部主事) 増田 健作(中学部主事) 当日欠席 菊池 亮輔(高等部主事)
傍聴者	1名(本校保護者)
協議資料	平成30年度学校経営計画(進捗状況)・授業アンケート・学校教育自己診断・教科書選定
備考	

議題等(次第順)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「学校経営計画」の進捗状況について
- (3) 「学校教育自己診断」について
- (4) 「授業アンケート」について
- (5) その他
 - ・「教科書選定報告」
- (6) 意見交換
- (7) 教頭挨拶

協議内容・承認事項等(校長等より内容説明)

1. <平成30年度 学校経営計画>進捗状況について

*「学校経営計画」本年度の取組内容の進捗状況について、校長が「基礎」「実践」「組織」「発信」の観点で、具体的に説明を行った。

- (1)【基礎】安全安心力の向上
 - ① 人権尊重の教育
 - ・「いじめ対策委員会」の設置と「学校いじめ防止基本方針」の策定(4月)。
 - ・「こども人権委員会」の立ち上げ(9月)と「こうようこどもサポート室」の準備進行中。
 - ② 心身の健康を守る教育の推進
 - ・ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告と分析活用及び今後の対応の共有化は、100%実施。
 - ・国事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の重点校として、〈1〉医師の泊行事付添い(中3修学旅行)実施済、〈2〉教員・看護師研修として「気管切開について」の公開研修会と「呼吸介助」の校内研修実施済。
 - ・学校医による泊行事の付添いは、生徒・保護者・教職員の安全安心につながり、成果は大きい。
 - ・「人工呼吸器を使用する児童生徒の対応」について校内ガイドラインを作成運用中(6月)。
 - ③ 危機管理体制の強化
 - ・「非常持ち出しバック」の物品交換は学期ごとに実施済。
 - ・一斉メール配信システムを「光陽支援安心メール」へ移行。
 - ・「学校における危機管理」へ俯瞰的に対応するため「防災PJ」から「危機管理委員会」へ組織変更への準備中。
- (2)【実践】授業実践力の向上
 - ① 教育課程の再編成
 - ・新学習指導要領に基づく指導内容表とチェック表を使用し、各授業担当者が指導内容の取扱い状況を確認した。
 - ② 質の高い授業実践
 - ・「主体的な学びを引き出す」という研究テーマに沿った公開研修会を実施済(7月)。授業参観週間・交流会共に、テーマに関連付けて実施。交流会については、授業者と参観者が深く交流できる形態を追求した。
 - ③ 自立活動の充実
 - ・病弱部門でのVRの実践は定期的に展開でき、他府県からの視察依頼も受け、実践発信を行った。
 - ・「スパイダー連絡会」の教員等が定期的にスパイダー活用の自立活動でアドバイスをを行った。

(3)【組織】組織力の向上

①教職員の専門性向上

・「全校研修」は外部講師に本校の実態を細かく伝え、校内のニーズに合った研修を実施することができた。

②引継システムの推進

・定期的な「断捨離」を行い、産業医による「断捨離」評価は、9月に実施済。

・学習指導案・略案・教材の「アーカイブ化」による引継ぎシステムの推進は、教務部・研究部・自立活動部等分掌、各学部でできることから発信・実践中。

③教職員働き方改革の推進

・週1回、毎週水曜日のノー残業デー(19時)は継続実施できた。さらに12月10日より①「仕事の時間を区切る」として、毎日19時学校施錠を実施。

(4)【発信】発信力の向上

①交流および共同学習の充実

・「学校間交流」は、5校19回実施。「居住地校交流」は、17校36回実施。

・出前授業により当日の交流が充実し、さらに交流後の振り返りで「相互の学びや気づき」を深めることができた。

②地域に開かれた学校作り

・「ポッチャ推進」の取り組みでは、「ポッチャ甲子園」(8月東京)「フェニックス杯」(11月長居)等の大会に参加し、校外へ成果を発信できた。また、2020オリンピック・パラリンピックのフラッグツアー大阪にも参加できた。

・「ゆめ水族園」では、地域学校園から6校園一般来校者合わせて224名の参加があり、地域とのつながりが実感できた取り組みとなった。本校を合わせると合計436名の参加実績。

③実践の積極的発信

・ホームページの定期的な更新は、各教職員が責任を持って実施できている。

2. <学校教育自己診断>について

【実施期間】11月19日(月)～11月30日(金)

【対象】保護者(提出率:78%)・児童生徒・教職員(提出率:100%)

(1)【基礎】安全安心力の向上

・保護者への関連設問項目「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」「学校は、安全であり、子どもは安心して学校生活を送れている」「教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権に配慮した言葉や態度で接している。」「大災害に備えて学校と連携し、定期的に非常用バッグの入れ替えや確認を行っている」について、概ね90%を超える肯定的評価があり、児童生徒及び保護者の安心安全のニーズに学校として応えられている結果であった。

・教員への関連設問項目「ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告が共有され、再発防止に活かされている」「医療的ケア実施体制構築事業」も活用しながら教員・養護教諭・看護師が協働し、安全に医療的ケアを行うことができている」「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」については、90%を超える肯定的評価であった。

・しかし、「児童生徒に使用する言葉・行動と同僚間で使用する言葉・行動の質を高め、人権を尊重した教育活動を行っている」「児童生徒の生活指導では、カウンセリングマインドを取り入れた丁寧な指導を行っている」の設問では、24%の教員が課題と感じていた。

・いじめに関する事案が起こった場合の対応体制や予防については、保護者・教員ともに「わからない」の回答が20%程度あり、「いじめ対応委員会」の設置があることや「学校いじめ防止基本方針」をホームページに載せていることの周知説明の必要を感じた。

(2)【実践】授業実践力の向上

・保護者への関連設問項目「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと思って受けている」「学校は、生きる力・学ぶ意欲を育てる授業や他者と協力して取り組む授業を実践している」「学校は、スパイダーやICT機器等を積極的に活用し、教育活動を充実させている」について、概ね80%から90%を超える肯定的評価であった。

・教員への関連設問項目「授業参観週間や交流会を実施し、他の教員と意見交換することで、授業改善・授業力向上に活かすことができている」「児童生徒の主体的な学びを大切に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業を行っている」「ICT機器やスパイダー等を積極的に活用し、児童生徒のニーズに応じた自立活動等の授業を行っている」「学校行事が児童生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」について、概ね85%から90%を超える肯定的評価であった。

(3)【組織】組織力の向上

・保護者への関連設問項目「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。(連絡帳・クラス便り・懇談等)」「教職員間で子どものことについて情報共有等、十分な連携がとれている」「教職員は、子どもの障がいについてよく理解している」について、概ね85%から90%を超える肯定的評価であった。

・教員への関連設問項目「全校研修会を適宜実施し、教職員の専門性向上に努めている」「校長の学校経営項目」について、概ね85%から90%を超える肯定的評価であった。

・しかし、「仕事が効率的に実施でき、引継がスムーズに行えるように定期的な整理整頓」(課題回答28%)、「働き方改革」(課題回答48%)、「教職員の意見の反映」(課題回答32%)、「教職員の適性・能力に応じた校内人事」(課題回答33%)「各学部・学年間や各分掌間の連携・情報伝達」(課題回答27%)、「個別の指導計画や個別の教育支援計画の共通理解と活用」(課題回答28%)について、課題解決に向けた検討が必要である。

(4)【発信】発信力の向上

・保護者への関連設問項目「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」「学校は関係機関と連携し、「なんでも相談会」や「こうやん座談会」等、保護者の交流する機会を設けている」「ホームページ等で学校の取り組みを知ることができる」について、概ね80%から90%を超える肯定的評価であった。

・教員への関連設問項目は、「地域への相談支援体制とセンター的機能の発揮」(肯定的回答74%)、「ホームページや配付物等での情報発信」(肯定的回答85%)であった。

* その他、「学校の施設設備面」の設問項目では、保護者・教員共に「トイレの環境改善・改修工事」についての必要性が、記述回答で多くみられた。

* 今後、以上の「学校教育自己診断アンケート」の結果を踏まえて、全教職員で分析・検討を行い、次年度の学校経営計画へ活かしていく。

3. <<授業アンケート>>について

(1) 第1回授業アンケート

① 提出率

- ・全体59% (肢体不自由部門63% 病弱部門50%)

② 集計結果

- ・5項目の質問に対する答えがA(そう思う)・B(だいたいそう思う)の合計を肯定的回答、C(あまり思わない)・D(思わない)の合計を課題回答とする。
- ・小学部は、肯定的回答が100%。中学部は、肯定的回答が92%。高等部は、肯定的回答が93%。病弱部は、肯定的回答が97%。保護者から全体として、肯定的評価をいただいた。
- ・自由記述では、より具体的に授業での良かった点や課題点を記入いただいた。2学期からの授業改善に活用するため、個人が特定できないように配慮・加工して、自由記述文もすべて職員会議資料として全教職員で共有した。

(2) 第2回授業アンケート

- ・現在、集約中。集計結果については、第3回学校運営協議会にて報告。

4. <<教科書選定報告>>について

- ・平成31年度使用教科書選定について、報告した。病弱部は、原籍校の教科書を使用している。

協議内容・承認事項等(委員からの意見の概要)

<<委員より>>

- ・「いじめ対策委員会」の設置は、いじめ事案があったことでの設置ではなく、予防に重点を置いたものか。
→「いじめ防止対策推進法」に基づき、すべての学校が設置しなければならない組織。いじめの防止及び早期発見に取り組むとともに在籍する児童生徒がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速に対応するための組織。
- ・「災害対策」として地域では、「水害」(河川の氾濫や津波)と「地震」を想定している。特に、地震は突発的に起こるものなので、対策が必要。地震が起こる時間帯によっても対応が異なる。夜間や早朝に起きた場合や子どもたちが学校にいる時間帯に起きた場合等、それぞれの時間帯による対応策の検討が必要。また、このあたりは地盤もゆるく、液状化対策も必要。地域と一体となって対策を進めてほしい。
- ・9月に上陸した台風21号の被害状況と修理状況を教えてほしい。
→人的被害は、なし。物的被害は、①新館高等部棟の3教室(暴風による窓ガラス・ベランダ側扉のガラス破損)②水耕栽培用ガラスハウス(暴風によるガラスの破損と枠の変形)③給食調理室の屋根と高等部棟の屋根(屋根のスレートの一部飛散)④停電等の状況(9月4日(火)14:00から 9月5日(水)11:30まで全館停電および断水。9月5日11:30から完全復旧)。修理は、順次行い、屋根のスレートは冬期休業中には終了予定。体育館の雨漏りの原因である天井補修は、1月以降となる。
- ・授業力向上・授業改善は、あらゆることの基盤になるので、今後も向上させてほしい。特に、肢体不自由のある子どもにとってのアクティブラーニング・障がいに応じた「深い学び」の研修・研究を進めてほしい。
- ・自立活動については、高等学校の通級指導教室や小中学校でも実践が進んでいる。支援学校でもさらに自立活動の充実と向上を期待している。
- ・働き方改革については、介助による負担で先生方が腰を痛めることがあると聞く。介助しやすいような環境改善と介助しやすい方法を共有して先生方の負担がないようにしていただきたい。先生方の健康は、子どもたちのためでもあり、先生方のためでもある。
- ・働き方改革として、12月より毎日19時施錠を行っていることは理想的ではあるが、業務的に課題はないのか。
→教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために①「仕事の時間を区切る」②「仕事のスリム化を行う」③「仕事の仕方を変える」の3点で整理をしながら、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進したいと考えている。まずは、①「仕事の時間を区切る」ということで、19時施錠をスタートさせた。これはスタートであり、ゴールではない。業務量の平準化・仕事のスリム化等、アイデアを出し合い、提案型で課題を解決できる組織でありたい。また、子どもたちのために時間内で全力を尽くし、最高の仕事ができるように計画的・逆算的に仕事ができるように意識改革も進めていきたい。
- ・ポッチャチームの活躍が素晴らしい。ポッチャチームはクラブ活動の位置づけか。事業所でもポッチャに取り組んでおり、練習試合等は可能か。
→放課後の練習も行っているが、形態としてはクラブ活動の位置づけではなく、「ポッチャ推進委員会」が中心となりサポートしている。練習試合は可能。
- ・学校教育自己診断アンケートの教員提出率が100%は、素晴らしい。(昨年度は56%)
- ・教員設問項目「各学部・学年間や各分掌間の連携・情報伝達がスムーズに行われている」で「あまりあてはまらない・あてはまらない」の回答が27%という部分が気になる。「日々の情報」を先生方で共有し、連携を密にしてほしい。
- ・教員設問項目「個別の指導計画や個別の教育支援計画について、教職員の共通理解を図り、活用している」で約30%が活用できていないと回答している。子どもの指導の根幹になるので、活用が促進されるように工夫してほしい。
- ・授業参観時に学年担任以外の先生方のお名前がわからないので、名札をつけていただけるとわかりやすい。
→介助時の安全面の配慮として名札の着用は行っていないが、名前がわかるような工夫をしていきたい。
- ・地域交流としての「学校間交流」の取り組みが素晴らしい。学校間交流は、同じ学年で行っているのか。
→清水小学校との学校間交流は同じ3年生間で行っている。
- ・出前授業等の事前学習があることで、双方の学びとなる。このような取り組みをこれからも大切にしてほしい。
- ・保護者としても子どもは地域で暮らしていく・育っていくので、交流の事前学習は興味がある。保護者として見てみたい。

次回の会議日程

日時	平成31年2月26日(火) 10:00 ~ 12:00
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室